

HKFA Technical Report

平成28年度 北海道トレセンU-12強化キャンプ

開催日時

平成28年4月22日～24日

会場

札幌サッカーアミューズメントパーク
夢きたれ

報告者

尾見 秀樹(U-12責任者)
安田 秀憲(網走地区)

参加スタッフ

山橋 貴史(JFA北海道)
北原 次郎(JFA北海道)
松田 哉(JFA北海道女子)
浮田 あきな(JFA北海道女子)
尾形 行亮(JFA北海道GK)
神田 法人(空知地区)
星 和彦(千歳地区)
松井 芳樹(旭川地区)
堀井 健仁(札幌地区)
熊谷 卓郎(北空知地区)
山下 真慶(小樽地区)
木崎 拓也(コンサ)
伊藤 公(北海道GKプロジェクト)
永田 壘(U-12会計)
菅原 和侑(トレーナー)
宗像 訓子(北海道女子)

1 事業の概要

4月22～24日までの2泊3日で、札幌アミューズメントパークと夢きたれを会場に、42名の選手(FP36名、GK6名)を招集し、トレーニングとゲームを行った。

2月に南北U-11に分かれて冬季交流会へ参加した以来の合宿であり、初招集の選手もいる中だったが、新しく人工芝が張り替えられたSSAPでサッカーができることを楽しむようにトレーニングに励む様子が見られた。6月末の合宿へむけて選手選考を行った。

2 トレーニングについて

3回のトレーニングは、それぞれ「テクニク」「ゴール前の攻防」「守備」をテーマに行った。

「テクニク」では、まずは正確にプレーすることを意識させ、徐々にパスやコントロールの質を求めていった。動き出すタイミングや動きながらのプレーを感じさせるために、コーチがディフェンス役に入りながら積み上げていった。

4対2(2対1+2対1)では、相手の状況に合わせた準備やコントロール、最後まで駆け引きしながらプレーの質を高めていった。

4対4+1フリーマン+2サーバー(7対4)では、ボールを触る前に相手と駆け引きが始まっていること、ボールを動かしながら複数の選択肢をもつことなどを意識させながらトレーニングを行った。



世界基準を日常に
日本のトップレベルを目指す北海道
5ブロックで一貫指導体制の構築

「ゴール前の攻防」では、ナショナルトレセンコーチの山橋氏と北原氏がグループのメインコーチとなり、トレーニングを行った。

シュートドリルでは、動き出しのタイミングや動きながらのパス・コントロールの質、ボールをしっかりと捉えることなどが伝えられた。

3対3+バックサーバー+GKでは、ボールホルダーや守備の状況に応じて攻撃の優先順位を考えたアクションを起こすこと、ゴール前でのチャンスを逃さないことが強調されていた。

途中、激しい暴風雨によりゲームは若干短縮されたが、選手のゴールへ向かう姿勢が変化し、中身の濃いトレーニングとなった。

「守備」では、アプローチの姿勢や相手の距離感、隙を逃がさずにボールを奪うことを意識してトレーニングを行った。

3対3+2サーバーでは、ルールを変更しながら、ねらいをもってボールを奪う経験を積み上げた。成功や失敗を繰り返しながら、相手との適切な距離感やポジショニング、プレーの予測といった成長が見られた。

2対2+2対2+GKでは、ボール状況を観てねらいをもつこと、プレスバックの有効性などを確認することができた。



3 GKについて

6名のGKを招集し、中身の濃いトレーニングができた。「シュートストップ」と「攻撃参加の意識」を求めた。今回参加した選手は、プレー中に味方へのコーチングができる良さがあった。

「シュートストップ」では、正しい構えやボール状況に応じた準備について確認をした。

「攻撃参加の意識」では、パス&コントロールでのボールの置き所について、常に選択肢が多くなるボールを持ち方を意識させてトレーニングを重ねた。また、ゲーム中にコーチングで攻撃の優先順位を考えさせることにより、視野を広くもったプレーへとつながった。



4 成果と課題について

サッカー尽くしの3日間の合宿を終え、選手同士が互いに刺激を与え合える環境であったと振り返ります。ピッチ内に限らず、宿舎での生活など、北海道を代表する選手の自覚をもって取り組んでいました。これはトレセン活動だけでなく、日常を支える各チームにおいてしっかりと指導がなされている成果だと感じております。選手には更なる高みを見て、目標を達成できるようスタッフは支えていきたいと考えています。

プレーでは、攻撃面でパスの強さや動きながらのプレーが習慣化されていない選手が見られました。守備面では、ボール状況に応じたポジショニングを取り続けることにストレスを感じる選手が見られました。6月末の合宿で、さらに習慣化して精度を上げながら、夏のFFPへ向けて取り組んでいきたいと考えています。

最後に、シーズン初めでチームづくりには貴重な時期に選手派遣にご協力いただいた各チームの指導者、保護者の皆様には大変感謝しております。ありがとうございました。

